ぱぴるす
聖学院大学総合図書館報

第74号（2022年春）
祝卒業・
新入生歓迎号

「図書館に陣を構えよ！」

土方　透

ベルリンの壁の崩壊、9.11 New York、リーマン・ショック、3.11 フクシマ、そしてコロナ・パンデミック。ここ数十年の間に、社会は、およそ想定外の出来事に翻弄され続けた。「想定外」ということは、事前に用意されたマニュアルが役に立たないということを意味する。目の前に起きている具体的な事実は、実に人間の想定を遙かに超えるほど複雑なのだ。

その一方で、世の中は「役に立つこと」「わかりやすいこと」を（思惟と学びの最終段階のチャンスである大学にまで）要求している。高度な議論、複雑な理論、崇高な芸術、深淵な宗教の教義、それらは、もはや人目をはばかるようにして存在しているかのようである。しかし、社会で想定外の出来事が押し寄せているという現実に鑑みれば、こうした「知」のあり方は、人類の自殺行為に等しい。

しかし本当に「想定外」だったのだろうか。少なくとも私は40年も前に、リーマン・ショックとコロナ禍を予言した社会学者を知っている（『ルーマン、学問と自身を語る』新泉社 1996 年、に収められたインタビューを参照）。当時、誰も彼のその指摘を気にとめなかった。その一方で彼にとって、この二つの出来事の予想など、実に「当たり前のこと」であり、あえて論じるほどのことではなかった。むしろ彼は、もっと他の事で頭がいっぱいであり、それをより明らかにするため、誰もが怖じ気づくような、難解かつ高度な理論を展開していた。その「主題」について、まだ世界中のほとんどの人が理解するには至っていない。

つまり問題は、想定外か想定内かではなく、想定能力そのものだった。こうした例は、歴史上他にも例を挙げることはできよう。しかし私は、この学者とその学問に、現実に出逢った。自分が半生をかけてかかわった学者との具体的な交わりのなかで、高度な学問は、それを見越した議論を可能にしていることを思い知ったのだった。私たちは、見落としていたに過ぎない。逆に、「役立つこと」「わかりやすいこと」がいかに役に立たず、事態を何も説明せずに放置してきたか。このことを根本から問い直すのでなければ、社会は、ただ自死に向かっているとしか、言い様がない。

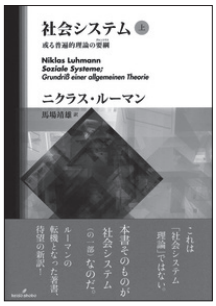
いまこそ、学問に沈潜せよ！　知的作業に埋没せよ！　そのことをもって迫り来る世界を生き抜け！　それこそ、もっとも役に立ち、わかりやすい、われわれに向けられた「指令（インペラティフ）」である。図書館は、その遂行を可能にする戦略室である。あるいは最強の後方支援室である。まさにそこで自らを鍛え、事態に備えるべきである。このことが、見通しの利かない世界のなかで自己の生きる時間と空間を可能にする、唯一われわれに与えられた、そして絶対のマニュアルなのである。

（聖学院大学総合図書館長・
政治経済学部教授）

『社会システム ー或る普遍的理論の要綱（グルントリス）』

N. ルーマン 著、馬場靖雄 訳、勁草書房　2020

この大学創立時（1988 年）から講義で本書の内容に言及してきたが、その内容に学生が「反応」し始めたのは 20 年前位からだった。本書の内容がわれわれの社会のこととして理解されるには、まだ数十年かかるだろう。この新訳に病身の訳者は渾身の力を振り注ぎ、絶命した。まさに学者として模すべき仕事のかたちである。



図書館所蔵あり 3F 書架　361||L96

「聖学院大学総合図書館の思い出」

118S077　並木　千恕

私は“本”というものが好きだ。本には夢が詰まっており、フィクションやノンフィクション、アクション系からファンタジーの世界といったさまざまな物で溢れている。そんな夢の世界で大学１年から４年までの４年間働けたことが幸せであった。当たり前ではあるが図書館とは本が所蔵された施設となっている。聖学院大学総合図書館には30万冊以上もの本が所蔵されていて一冊一冊に著者の思いや考えが詰まっている。

図書館業務の中でも「ブックカバーかけ」に精を出していた。本の大きさに合わせて透明なシートをかける作業は集中力や繊細さを要求される業務となっていた。１年生のときに見本を図書館職員に見せてもらったときに「すごい！」と声に出してしまった。私もブックカバーかけをマスターしたいとその時に思った瞬間であった。初心者でもやりやすい文庫サイズから始まったのだが最初からきれいにカバーをかけることはできなかった。何度挑戦しても空気が入ってしまいなかなか難しいもので苦戦した。私の性格上、負けず嫌いな部分があったためどんなに失敗してもあきらめきれずにいた。教えてくれた図書館職員には「練習あるのみ、数を重ねていくごとに上手くいく」とアドバイスをもらってからはより一層、失敗しないためにブックカバーかけを頑張った。回数を重ねるごとに背表紙に空気が入っていることに気づいてからは空気が入らないように定規を使い空気を抜くようにしたら上手くできる本が増えた。

今ではＢ５サイズから文庫サイズまでのカバーをかけられるまでに成長することができた。初めからできないと思わずにやり続けた結果が今につながっていると思う。一つのことを極めればそこからは自分なりのやり方を見つけることができると私はブックカバーかけを通して知ることができた。勉学や自分の好きなことなど人は自分だけの「武器」を持っている。人に自慢できないことでも極めればほかのことにも活用することができるのだ。

（心理福祉学科４年）

「資料を借りるだけが利用方法ではない」

119A027　齋藤　皓紀

私は聖学院大学に入学してもう四年目になる。私のような変わった人間は、この三年の間に何回キャンパスを訪れただろうか、などと妙なことを気にしている。コロナ禍の時代に突入してからはキャンパスを訪れる機会が激減してしまったが、それでも、日進駅から足を運んだ日数ははかり知れない。（注：駅から大学まではそれなりの距離があるため、スクールバスの利用を勧める。）

静かな空間は気持ちが落ち着く。私にとっては自宅の自室こそが最上の空間であるが、もしそれ以外で選ぶとしたら、聖学院大学の図書館を挙げるであろう。聖学院大学の図書館は静か（しかし、完全に無音ではないという点がまた良い）で、本当に心地のよい場所だ。

私は聖学院大学の図書館を授業間の空き時間に利用することが多い。図書館所蔵の資料を借りてこの場所で読む、というのはもちろんだが、利用のしかたはそれに限らず、課題やレポート作成を進める場所としても、単純に空き時間を過ごす場所としても利用が可能だ。（ただし、図書館で友達とおしゃべりするのは避けよう。）

また、この聖学院大学の図書館では、館内でアルバイトができるLA（ライブラリー・アシスタント）というものが展開されたり、図書館主催で魅力的なイベントが開催されることもある。後者には様々な種類のイベントがあるが、私の場合は、フォトコンテストと学生選書の企画に毎回の如く参加している。

その中でも、第五回のフォトコンテストで最優秀賞に輝くことができた時の感動は、今でも忘れることがない。これから入学されるという方々に、いつか同じような感動を味わってほしく思う。今回、このコラムを書かせていただけることになったため、せっかくなので、当時のフォトコンテストで映した棚を背景に、私の顔写真を撮影した。私にとって聖学院大学の図書館で最も大きな思い出となったのは、あのフォトコンテストでの出来事であっただろうと感じる。（欧米文化学科３年）

「聖学院大学総合図書館 オンラインイベント元年」

司書課　田山　恭司

2021 年度、コロナ禍を受けて聖学院大学総合図書館では様々なオンラインイベントを主催・共催、そして参加してきた。

まずは 5 月に開催の「第 5 回高校生ビブリオバトル・ワークショップ」。今回から聖学院大学総合図書館主催となり、また初のオンラインイベントでもあった。運営として多少のミスはあったものの、バトルそのものは通信障害もなく最後まで行うことができた。

続いて 11 月に「大学ビブリオバトル・オンライン大会 2021」の予選会を開催した。これは例年行われていた「全国大学ビブリオバトル」の代替会に当たる。本学学生を含め多数の応募があり、また大きな混乱もなく終えることができた。

さらに 12 月には「図書館と県民のつどい埼玉」にて県内大学図書館の 1 つとしてオンライン展示の一翼を担った。今年度は本格的な Web 展示となり、「新聞でタイムトラベル」というタイトルで新聞の歴史を本館所蔵資料の記事イメージで振り返った。閲覧者のアンケート感想ではおおむね高評価がなされていた。

最後に 1 月に「図書館たほいや」をオンラインで開催した。「たほいや」とは辞書等から誰も知らないような単語をひとつ選び、単語を選んだ人は正しい意味を、他の参加者はウソの意味をいかにも辞典に載っているような文章で書き、最終的にどれが本当の意味か当てるという言葉遊びゲームである。昼休みの時間帯に、教職員・学生併せて 4 名の出題者が 2 週に渡って出題を行った。1 月という時期に加え「たほいや」自体があまり知られていないためか観戦者数こそ少なかったものの、観戦者からは「面白かった」といった好意的な感想をいただいている。

コロナ禍という状況により行ったオンラインイベントであったが、オンラインの強みである時間と場所に縛られないという特徴を最大限に活かせたのではないかと考えている。来年度以降、対面でのイベントが可能となった際に、これらの開催がどのような形になるかは未知数だが、今年限りの特殊事例とすることなく、「いいとこどり」をして行きたいものである。

2021 年度　図書館の動き

◎電子雑誌 d マガジン導入

学生の利便性を鑑み、d マガジンを導入した。これにより、従来の一般雑誌種数を上回る雑誌を図書館の iPad のほか個人のスマホ･タブレット端末で閲覧することが可能となった。現在は図書館内限定だが、今後は食堂等学生の利用が多い施設へ拡大していく予定である。

◎関根文庫開設

関根清三先生よりご尊父である関根正雄先生の蔵書約 3,000 点の寄贈があり、文庫化した。3 号館に開設し、蔵書検索システム OPAC での検索及び貸出も可能となっている。

◎児童学科 柴崎ゼミ制作物展示

10 月より、コロナ対応により利用を停止していた 4 F アクティブラーニング室 C を期間限定で柴崎ゼミの制作物展示室とした。制作物のテーマは「エリック・カール」で、著作の絵本の展示も同時に行った。

◎さようなら、図書館システム「UNIPROVE」

長らく聖学院大学総合図書館を支えてきた図書館システム UNIPROVE が今年度で利用終了となる。それに伴い 2022 年 4 月には図書館ホームページもリニューアルされる。またマイページに保存されている、貸出・ILL 取寄・リクエスト・予約の各種履歴やお気に入り本の書誌情報等も全てリセットとなるので注意していただきたい。

2021年図書館の統計

（2022年1月31日現在）

Ⅰ　図書館の推移

	学生数	蔵書数	年間受入冊数	開館日数	貸出冊数	資料費
	人	冊	冊	日	千冊	千円
2021	2,320	304,264	2,351	229	5	25,036
2020	2,185	306,425	2,628	245	0.7	21,504
2019	2,014	309,297	3,781	262	8.9	26,760
2018	1,780	309,059	3,791	275	7.6	26,583
2017	1,725	306,655	3,483	274	8.6	26,666
2016	1,846	306,694	3,304	280	9.9	26,285
2015	2,098	304,757	3,943	283	11.5	26,718
2014	2,161	300,897	3,053	281	13.3	27,788
2013	2,419	299,396	3,343	282	14.2	27,216
2012	2,513	296,694	4,261	283	15.8	27,654
2011	2,677	293,148	4,930	275	16	30,849
2010	2,768	288,629	5,116	288	16	30,465
2005	2,968	254,921	6,878	232	18.4	29,700
2000	2,549	219,368	6,769	274	18	35,805
1995	2,137	163,506	13,438	271	21.5	39,700
1990	1,769	96,752	8,195	280	11.8	22,650
1985	1,005	51,000	5,043	284	10.1	12,399
1980	877	36,000	2,599	236	6.8	7,588
1975	763	22,000	4,265	183	3.5	3,754
1968	256	10,000	2,838	〔247〕	〔1.4〕	〔1380〕
1967	125	7,000		〔247〕	〔1.4〕	〔1380〕

規程の変更に伴い、1999年以降は消耗品図書も含めた冊数とした。

Ⅱ　蔵書冊数

	和書	洋書	合計
総記	11,791	1,468	13,259
哲学・宗教	22,689	17,760	40,449
歴史・地理	19,916	3,590	23,506
社会科学（含教育学･福祉）	81,834	18,382	100,216
自然科学（含医学）	13,024	1,039	14,063
工学（含家事）	7,212	456	7,668
産業	5,649	472	6,121
芸術（含楽譜）	11,628	966	12,594
語学	11,034	3,225	14,259
文学	43,806	14,418	58,224
その他	9,058	4,847	13,905
合計	237,641	66,623	304,264

Ⅲ　その他の蔵書資料数

和雑誌（紀要･寄贈含）	722	カセットテープ	644
洋雑誌（寄贈含）	366	ビデオ・LD・DVD	3,303
スライド	34	CD	1,471
マイクロ資料	18,814	CD-ROM	882

洋雑誌は2020年よりデータベース契約に切り替えを進めている。

Ⅳ　その他（他館との協力等）

（2021年4月1日～2022年1月31日）

資料借用	67 （内、学生･院生　25）	複写依頼	376 （内、学生･院生　220）
資料貸出	36	複写受付	93
紹介状発行	0 （内、院生　0）	視聴覚コーナー利用	77
		館内ノートPC貸出	752
紹介状受付	0	iPad貸出	1,267
文献検索	15	マイクロ利用	0

視聴覚コーナーは一時利用を休止した。

Ⅴ　館外貸出冊数：学科・学年別

（2021年4月1日～2022年1月31日）

所属・学年		図書（製本含む）	未製本雑誌	CD
政治政策	2年	0	0	0
	1年	40	4	0
アメ・ヨ文化	後3年	0	0	0
	後2年	0	0	0
	後1年	0	0	0
	2年	15	0	0
	1年	1	0	0
心理福祉	2年	2	0	0
	1年	73	0	0
科目等		20	0	1
大学院生小計		151	4	1
政治経済	4年	84	0	3
	3年	294	1	13
	2年	326	0	1
	1年	154	0	10
コミュニティ政策	4年	0	0	0
欧米文化	4年	188	1	8
	3年	392	3	7
	2年	231	0	8
	1年	235	0	11
日本文化	4年	300	4	3
	3年	409	13	0
	2年	345	4	3
	1年	379	2	0
児童	4年	49	0	0
	3年	378	4	1
	2年	120	1	1
	1年	237	3	3
こども心理	4年	0	0	0
心理福祉	4年	223	17	2
	3年	316	10	4
	2年	106	0	0
	1年	124	0	2
人間福祉	4年	10	2	0
科目等		0	0	0
学部生小計		4,900	65	80
院生・学生合計		5,051	69	81

本年度はコロナ対策のため入館制限を行っていた。

Ⅵ　館外貸出冊数（図書・製本雑誌）：分類別

（2021年4月1日～2022年1月31日）学生・院生・履修生のみ

	和書	洋書	合計
総記	180	0	180
哲学・宗教	658	11	669
歴史・地理	288	0	288
社会科学（含教育学・福祉）	1,418	5	1,423
自然科学（含医学）	189	17	206
工学（含家事）	70	0	70
産業	65	0	65
芸術（含楽譜）	368	5	373
語学	427	8	435
文学	904	14	918
その他	423	1	424
合計	4,990	61	5,051

発行・編集　聖学院大学総合図書館
〒362-8585　埼玉県上尾市戸崎１－１
電話 048-725-5461　FAX 048-780-1096
E-mail：lib@seigakuin-univ.ac.jp
URL：http://lib.seigakuin-univ.ac.jp/